

OPINION

中部経済新聞

ナビゲーター

1923年にムスタファ・ケマル・アタテュルクによって建国されたトルコは、アジアに位置する国であり、その一部は南東ヨーロッパにある。東洋と西洋の文化や産業が融合した成功事例は、数十年前からトルコで生まれている。

国勢概況を紹介する。人口は8700万人で世界18位。面積は80万平方キロメートル。首都はアンカラだが、最大都市はイスタンブール。GDPは3457兆米ドルで世界12位(24年推計値)。海岸沿いは平原で、中央部は高原や山脈で温帯気

日本への期待
世界各地から

其

116

候だが、内陸部はきびしい気候である。加えて地震が頻繁である。

経済的には、高位中所得国に位置する新興市場である。経済協力開発機構(OECD)とG20の創設メンバーであり、購買力平価調整後のGDP(PPP、20年)で世界第15位の経済大国。サービス業がGDPの大半を占め、観光業が8%、工業は30%、農業が7%を占める。粗鋼生産は世界第8位、自動車生産と造船は世界第13位。22年の外国人観光客数は5050万人で

概況から地政学上の位置づけまで

トルコから(上)

世界第5位。繊維輸出額は世界第5位で、主要な産業は自動車、電子機器、繊維、建設、鉄鋼、鉱業、食品加工である。ユネスコ世界遺産は21件、暫定リスト84件となっている。

エネルギーに関しては世界第16位の電力生産国で、再生可能エネルギーによる電力は過去10年間で3倍に増加した。地熱発電は世界第4位である。化石燃料の割合は依然として大きく73%を占めるが、53年までにネット・ゼロが、00年の0.47%から21年

域の石油・ガスパイプラインのハブになることを目指している。

23年時点で、3726キロメートルの有料高速道路と29373キロメートルの無料高速道路網が存在する。橋梁(きょうりょう)とトンネルでアジアとヨーロッパを結ぶ。24年現在、国内に115の空港。イスタンブールの空港は、世界で最も利用者の多い空港のトップ10に入っている。

研究開発に関しては、GDPに占める研究開発費の割合が、00年の0.47%から21年

トルコと日本両国の、最初の外交関係は1890年にオスマントルコが日本に派遣した海軍使節団であった。国交は1924年に樹立されたが、産業協力は第2次世界大戦後に活発化した。50年代に

は貿易協定を締結、繊維や製造業で工作機械や工業製品の交流が促進された。

1980年代から90年代にかけ、経済拡大を目指す中で西国関係が強化された。日本企業は自動車、輸送機器部品、IT・通信、インフラ、都市開発・交通、画像・印刷ソリューション、鉄鋼製造、二国間貿易などの分野でトルコへの投資を開始した。トルコ企業は食品、建設・インフラ、エネルギー、繊維、鉄鋼、家電製品などの分野で、貿易と相互協力を促進するため、日本での活動を活発化させた。

【セラル・セフキン、リーム中産連】

(月曜日に掲載)